

「君の名は」

作者 高間響

笑の内閣

登場人物

三葉 飛驒に住む女子高生

陛下 天皇陛下

婆様 三葉の祖母

お蝶夫人 三葉のテニス部の先輩

侍従 天皇に仕える側近

あーこ様 天皇陛下の孫

あらすじ

飛驒に住む女子高生、三葉はなにごとくもすぐ投げ出す性格で、せっかく入ったテニス部もさぼりがち、こんな田舎ではなく高貴な家に生まれれば楽しい人生がおくれるのにと思っていた。

そんなある日、三葉は天皇陛下と入れ替わってしまう。数日に一度入れ替わる生活をしているうちに、なにかを続ける大切さを学んだ三葉はテニスで優勝する。

一方、公務を続ける義務に苦しんでいた陛下に対し、三葉はお礼に入れ替わった日に退位を発表する。それから二度と入れ替わりは起こらず、お礼を言うため陛下は飛驒まで行幸する。

上サスに三葉 下サスに陛下がいる

三葉 朝、目が覚めると何故か泣いている。そういうことが時々ある

陛下 見ていたはずの夢は思い出せない

三葉 ただ、なにかが消えてしまったという感覚が目覚めてからも、長く、残る

陛下 ずっとなにかを、誰かを、探してる

三葉 そういう気持ちに取り付かれたのは、たぶん、あの日から

陛下 そう、お気持ちを、表明した日

サスから全体の明かりへ

二人 君の名は

暗

舞台は飛驒の山奥の村

蝉の声

自宅で目覚める三葉

明

三葉 あー、ねむ

婆様 三葉ちゃん、おきたんかえ

三葉 あ、おばあちゃんおはよう

婆様 今日はおっぱい触らんのかえ

三葉 は？なにいつてんの？

婆様 はよ、着替えんと遅刻するで

三葉 わかってるわよ

婆様 はい、というわけで彼女は本当はこのシーンではパジャマを着ているのですが、舞台上で着替える訳に行かないし、そもそも時間が勿体ないので、便宜上、最初から制服で寝ていた事になっています

婆様はけ、お蝶夫人が出て来る
いつのまにか通学路になっている

お蝶 おはよう、三葉さん

三葉 あ、お蝶夫人。おはようございます

お蝶 今日は普通ですわね

三葉 どういうことですか？

お蝶 覚えてらっしゃらないの

三葉 え？

お蝶 とても変な喋り方をしましたでしょう

三葉 は？

お蝶 それより、三葉さん

三葉 なに？

お蝶 テスト期間が終わって部活も再開したのに、どうして昨日は練習に来
なかつたのかしら

三葉 あの・・お蝶夫人

お蝶 なにかしら

三葉 私、テニス部やめるって言いましたよね

お蝶 ええ、聞きましたわ

三葉 なんで、もう練習には

お蝶 なにを甘えた事をおっしゃってるの

三葉 甘えた事って

お蝶 あなた、宗方コーチから私とペアを組む事を指示されたじゃない。な
のに、やめたいだなんて

三葉 いや、本当申し訳ないんですけど、練習しんどくて

お蝶 練習はしんどいに決まっています

三葉 私がお蝶夫人とペアなんて無理ですよ

お蝶 あなたね、あの宗方コーチがいきなり抜擢するなんて、よほどの才能
がないとありえないですよ

三葉 そんなこと言われても、私本当小さい時からなにやっても続かないん
ですよ。ピアノしてもバイエルも終わらないし、進研ゼミをやっても赤ペン
先生出さないし、信長の野望を長宗我部家でやっても四国統一したくらいで

やめちゃうし

お蝶 この話は飛驒が舞台なんだから姉小路家でやりなさいよ

三葉 だから、もう別な方とペア組んで下さい

お蝶 愚か者、自分でテニス部に入部したのに、テニスへの想いはそんなものなの？

三葉 でも、私別にそんなにテニス好きじゃないですから

お蝶 なんですって

三葉 いやテニス部っていうから、テニスなんて申し訳程度にやって、やら飲み会して、都会的な彼氏つくって、冬はスキーする部だと思ってたんですよ

お蝶 それは大学のテニサーであって、高校のテニス部なら真面目にテニスするに決まってるじゃないの

三葉 そう、もっと都会的でハイセンスな部なら、長続きするかもしれないです

お蝶 なにおおっしゃってるの

三葉 私にはこんな田舎で、スポ根みたいな部活は似合わないんです

お蝶 そんな
三葉 もうこんな田舎は嫌だー。来世は、東京の高貴な家の生まれにしてくださーい

暗

舞台は皇居

雀の声

陛下 起き上がる

明

陛下 朝か

顔を触る

陛下 ん？しわしわ

髪をさわる

陛下 え、なんで白髪？

侍従でてくる

侍従 はい、このシーン実際はパジャマを着てるわけですが、男の着替えを舞台上でやっても嬉しくないし時間が勿体ないので、便宜上スーツで寝ていたことにします。おはようございます陛下

陛下 へ、陛下？

侍従 どうされました陛下

陛下 陛下って、私？

侍従 それ以外に誰がいらっしゃるんですか

陛下 え、あの私、いつから陛下になったの

侍従 そりゃあ、28年前からですよ

陛下 そんなわけないじゃん、三葉はまだ16だから

侍従 なにをおっしゃってるんですか

陛下 本当に28年前？

侍従 ええ、即位をした時からですよ

陛下 即位って、正常位や騎乗位すらしたことないのに

侍従 3人も子供作っというてなにいつてるんですか

陛下 子供？

侍従 はい

陛下 私、子供いるの？

侍従 ええ、お嬢様と立派な殿下がお二人

陛下 え、小野寺昭？

侍従 そのデンカではございません

陛下 いやいや、私、子供なんか産んだことなんかないって

侍従 そりゃあ、陛下が産めるわけじゃないんですか

陛下 なんで

侍従 そりゃ、それこそが万世一系の象徴であり、2600年前から続く
染色体を脈々と受け継ぐからであって

陛下 ちよっとまって

侍従 はい

陛下 そもそもまずあなた、あなた誰

侍従 わ、私が誰かわからないというのですか

陛下 ごめん

侍従 な、なんと陛下にお使えして30年。お顔を忘れられてしまうとは、

無念、無念です。腹を切るしか

陛下 ちよ、なにしてんの

あーこ じい、なにを騒いでいるのです

あーこ入って来る

侍従 これはこれは、あーこ様

あーこ おじいさまはもう82歳。ポケてもおかしくない歳ですよ

侍従 そうではございますが、どうも朝からわけのわからないことを

あーこ 我が一族は、時々キチガイをだす家系ではないですか。大正のひい

ひいじいさまみたいな

侍従 ちよ、まじでやめてください

あーこ おじい様、侍従の顔などいちいち覚えてなくても気にする事はありません

せんよ

陛下 あのあなたは

あーこ まあおじいさまったら、孫娘の顔まで忘れてしまいましたか？

陛下 まご？

あーこ ええ、あなたの長男にそっくりな孫ですよ。本当、なんで母の方に似てくれなかったんだってくらい、悲惨なくらい似てる孫の顔までわからないのですか

陛下 あー、そういうことあーこれ夢だな

侍従 なにをおっしゃってるんですか

陛下 よく見たら部屋もすごい豪華だし、可愛い孫も居るし、せっかくだし夢を楽しむか、あーこちゃんだっけ

あーこ はい

陛下 今日はなににしに？

あーこ はい、私も春から高校生。どの部活に入ろうか相談をしようと思いま
して

陛下 部活の相談？

あーこ はい、中学までは幕内の関取の名前を全部暗記するという趣味を極め
ていたせいで、それでクラスの男子からいじめられました

陛下 そんなんでいじめ？それは酷いなあ

侍従 ええ、もちろん不敬罪で島流しにしましたが、それでももう不登校は
困りますぞ

あーこ ですから、もっと華のある部活がしたいのです。いとこのかっこさん
のようにモテたり、まっこさんのように意見交換会をしたいのです

陛下 なら、ダンスがいいんじゃない

あーこ ダンスですか

陛下 そう、めっちゃ、都会的でもてそうじゃん

あーこ たしかに、かっこさんもそれでモテてますね

陛下 私も踊って良い？

あーこ おじいさまがですか

陛下 はい

侍従 お年も考えて下され

あーこ じい、良いではないですか

侍従 しかし

あーこ いきましょう。おじいさま

暗

飛驒の村

蝉の声

明

三葉 起き上がる

三葉 ん、んー？

自分乳をさわる

三葉 これは、いったい、どういう、こと、なのでしょう

婆様 入って来る

婆様 三葉ちゃんやどうしたんだい

三葉 はい？

婆様 ほんまに、自分の乳揉むの好きやのう

三葉 おいおい

婆様 なに

三葉 これは、私の乳、だと、いう、のですか

婆様 そりゃあそうじゃ

三葉 私の父は、70年前の夏、堪え難きをたえ、忍び難きを忍び

婆様 なんだいその喋り方は

三葉 なにか、おかしい、ですか

婆様 なんて、そう文節ごと区切っとるんかえ

三葉 これは、普通では、ありませんか

婆様 なんて手ふるんかえ？

三葉 つい、くせで

婆様 あんたおかしいよ

三葉 そうですか

婆様 とりあえずさ、学校いかないと遅刻するよ

三葉 学校、この歳になって、学校に、いかないと、ならないのですか

婆様 そらそうや。はよういってきんしゃい

婆様 はけ

三葉 なるほど、これは夢か。まあよい、ちょうど下々の、者たちの、暮ら

しも、体験、してみたいと、思っていたところだ

いつのまにか通学路に 三葉歩き出す

三葉 なるほど、警護なしで、登校とは、気持ちよい、ものだな

三葉 なるほど、下々の、ものは、通るとき、必ず、青信号に、ならないの
だな

お蝶 入って来る

お蝶 おはよう、三葉さん

三葉 おはよう

お蝶 なぜ、手をふるのですか

三葉 あ、つい、くせで

お蝶 それより三葉さん、テニス部のことだけですけど、やはり復帰しませ
んか

三葉 それは、どういうことですか

お蝶 どういうことって酷いですわ、自分でやめるといいだしたのに

三葉 私が、ですか

お蝶 そうですよ

三葉 私は、テニス部なのです

お蝶 もちろんじゃありませんか

三葉 なるほど、若い肉体で、久々にテニスまで出来るとはなんたる幸運。

テニスやりたい。テニス大好き

お蝶 本当？テニスそんなに好きじゃないって言ったのに

三葉 私はテニスで、粉屋の娘を落とすたくらいのテニス好きですよ

お蝶 まあうれしい

三葉 早速練習しましょう

照明上下サスに

ラップ調のリズム

楽しそうにヒップホップと、テニスをする陛下と三葉

陛下 オレは東宮生まれ 学習院育ち 雅な奴はだいたい友達

お蝶 いくわよ

三葉 はい

あーこ あたし東宮生まれ 学習院育ち 悪そな学友 だいたい 追い出し

お蝶　いくわよ

三葉　はい

侍従　オレは平民生まれ　宮内庁勤め　雅な奴に代々お仕え

二人　まじ楽しい、都会&田舎の生活

暗

上サスのみ

婆様　あんたまだ寝てるのかい

三葉　あれ

婆様　今日は、乳揉まんの？

三葉　戻ってる、やっぱり夢だったんだ…

三葉　というのは間違이었다。その後も私は2、3日にいっぺん、高貴な方の人生を追うようになった

下サスもつける　陛下が中にいる

陛下　私も、定期的に田舎の女子高生になっていた

三葉　これは

陛下　もしかして

三葉　私たち

陛下　本当に

二人　入れ替わってる！

下サス消す　上サスのみ

三葉　困った事に入れ替わっていた日の記憶はお互いがない。これでは戻った時に不便だ、よってお互い寝る前にその日に会った事は全部スマホに記録しておく事にしたのだ。ということ、今日は普通か。さて、あの爺ちゃんまた余計な事・・・してるよ。またテニスの練習いったの。もう

お蝶入って来る

お蝶 三葉さん、どうして今日は練習来ないの

三葉 いやだから。やっぱり私には無理ですって

お蝶 昨日はあんなに張り切ってたのに、最近、やる気がある日とない日の差が激しすぎますわ

三葉 それは、事情がありました

お蝶 世の中、我慢してでも続けなきゃならないものだってある

三葉 そう・・ですかね

お蝶 って、自分がおっしやってたんでしょ

三葉 私が

下手にいる陛下にサス CI

陛下 そうです私は、昔から、様々なしきたりを、こなしてきた。それに、比べれば、自分で、やろうと、決めた、ことくらい、やり遂げられなくて、どうするのですか

三葉 …確かに、そうだよな。一度は、自分でやろうと決めたことだもんね。私、やってみるよ。

声 本日の決勝戦 お蝶・三葉ペア対お蘭・モブペア

三葉とお蝶でラケットをもち、マイムで試合をする

声のみ ゲームセット 勝者 お蝶 三葉ペア

喜ぶふたり

上サスのみ

三葉 こうして私は、生まれてはじめてなにかをやり遂げた

下サス

陛下 よく、やりましたね

三葉 よく考えたら元々、したいことだもん、それに比べれば、おじいちゃん
んは偉いよ

陛下 どうして、ですか

三葉 私、最初は高貴な生活、楽しかったよ。でもさ、毎日、閣議の書類に
捺印したり、外国の要人に会ったり、大臣や裁判官の叙任をしたり、勲章を
授与したり、したいことでもないのにあんな忙しい事して、しんどくないの？

陛下 それは、とても、しんどいですよ

三葉 だったら、やめたら、いいじゃない

陛下 できません

三葉 そんな

陛下 死ぬまで、私は、公務を、し続けるしか、ないのです

三葉 なんて

陛下 それが、この一族に、生まれた、運命、なのです
三葉 だったら、今度、私が入れ替わったら

暗

下サスのみ

侍従 おはようございます陛下

陛下 じい、頼みがある

侍従 なんてございましょう

陛下 すぐに記者会見の用意を

暗

上サスのみ

婆様 おはよう三葉ちゃん

三葉 今日は、こちらか

婆様 「V」みないかえ

三葉 なぜですか

婆様 陛下が、お気持ちを発表するんだよ

三葉 な、今日は、入れ替わっているのに、あいつ、いったい、なにを、言う、きなのですか

記者会見のカメラ音

下サス

陛下 えー、かいつまんで言います。私、やめたいです

さらに大きなカメラ音

一瞬暗

下手に陛下 上手の三葉にサス

陛下 それから、二度と、入れ替わりはおきなかった。彼女は、入れ替わっている間、私が言いたくても言えなかったやめるとい意思を表明してくれた。だから

三葉 お爺ちゃんのおかげで、今まで何事も途中で投げ出していた私は、続けるということが出来た。だから

二人 お礼が言いたい

三葉 でも、私が、陛下に会うなんて、出来るわけがない

陛下 しかし、私なら、できる、じい

上サス消す 下サスのみ

皇居 侍従でてくる

侍従 どうなさいました

陛下 この絵を、みて、ください

侍従 はい

陛下 岐阜に、こんな景色の、町が、ある、そうだ。次の行幸は、ここに行きたいのだが、手がかりが、この絵しかない。できるか

侍従 はは、我が宮内庁に不可能はございません

下サス消し 上サスのみ 飛驒の村

婆様 たいへんだ。こんな田舎に陛下が来るらしいだよ
三葉 陛下が
お蝶 三葉さん、見に行きませんか

全体地あかり

あーこ さ、おじいさまいますよ
陛下 ああ

行幸をはじめめる陛下とあーこ

侍従 はい、沿道の人、ちゃんと万歳する
お蝶と婆様 ばんざーい、ばんざーい

あーこ 陛下とお蝶と握手する

あーこ がんばってください
お蝶 ありがとうございます
陛下 がんばってください
お蝶 ありがとうございます

あーこ 陛下、婆様と悪手する

あーこ がんばってください
婆様 ありがとうございます
陛下 がんばってください
婆様 ありがとうございます

あーこ 三葉と悪手する

あーこ がんばってください
三葉 ありがとうございます

陛下、三葉の前で止まる。三葉であることに気づく

15

陛下 ずっと探してましたよ

三葉 はい

陛下 まだ、お互いなのっておりませんでしたね

三葉 はい

二人 あの

一瞬間

君が代 をならし

君が代の歌詞で、全員がきみのーなーはーと歌う

暗